

越谷市自治会連合会出羽支部

現地研修会報告書



越谷市リサイクルプラザにて

普段出している家庭のゴミがいったいどのように処理されているのだろうか？各自治会が廃品回収を一生懸命やっているけど、本当に役立っているのだろうか？ゴミの分別化を会員の皆さんに指導しているけれども、いったいどのような意味があるのだろうか？知っているようで知らないこと、知らないことを指導する難しさ、そんなことを払拭するためにも各自治会のリーダーが地元の清掃工場の見学をし、本当の意味を理解し、会員の皆さんに正確な指示を出せるようにすることは大変意義のあることです。

今回の現地研修会では、様々な種類のゴミがどのように処理されていくのを見学し、越谷市のゴミの現状、また処理をしていく過程で何が資源として有効なのか、何を減らしていくべきなのかを正確に把握し、今後私たちがどのような取り組みをすべきかを考察するための研修会でした。

実施日： 2015年6月25日（水）

実施地： 「東埼玉資源環境組合第一工場ゴミ処理施設」及び「越谷市リサイクルプラザ」

参加者： 各自治会より会長及び会長代理23名 疋野出羽地区センター館長 合計24名



東埼玉資源環境組合第一工場ゴミ処理施設見学

ここでは Power Point でのスライドレクチャーがあった後、広大な施設内を係員の方と回り説明を受けてきました。本施設は越谷市、草加市、吉川市、八潮市、三郷市、松伏町の5市1町で使っていて約38万世帯90万人近くの家庭から出される可燃ゴミを処理しています。

燃やしてしまうということで出されたゴミは消失するものと考えがちですが、本施設ではゴミを燃やす際の熱で発電機を回し、その電気を使って施設の電力をまかない、また余った電気を東京電力に売電し、年間9億5千万円程の売り上げがあります。さらに熱で出た蒸気は工場周辺の施設へ供給され、温水プールや浴室で使われていて、地球温暖化防止にも一役買っています。

燃やされたゴミも全く無くなってしまふのではなく、灰が出てしまいます。この灰は最終処分場に埋められるのですが、最終処分場もキャパがあるため灰の減量化をはからなくてはなりません。焼却灰をさらに高熱で溶かすとスラグという粒子になり、焼却灰を3分の1に減らす他、環境面においても安定したものになります。



そして焼却時に灰とともに出るのが排ガスです。この排ガスにダイオキシンなどの有害物質が含まれているのですが、この施設では大きなバグフィルタによって、すす、塩化水素、硫黄酸化物などを取り除きクリーンな排ガスを展望台にもなっている地上100Mの煙突から排出します。

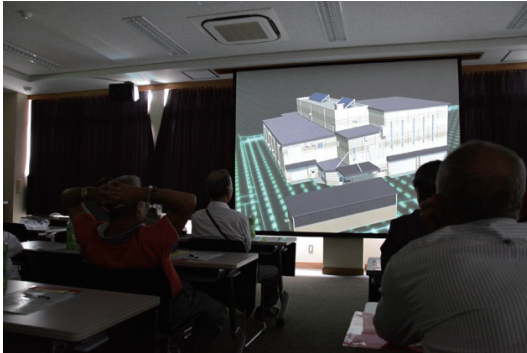
本工場では燃えるゴミを扱っていて、エコやエネルギー資源の確保など大きな工夫により、環境に与えるダメージを最小限に抑えています。しかし焼却ゴミは必ず廃棄物が出てしまい、限りある最終処分場の廃棄スペースをできるだけ長く使えるようにするためにはやはりゴミの減量しかありません。また、平成15年には4千トンも溜めておけるゴミピットのキャパを超えてしまい、税金を使い三重県の伊賀上野までトラックでゴミを運びゴミを燃やしてもらったという経緯もあります。その後分別やリサイクル活動が活発化し、人口が増えてきているにもかかわらず、ゴミの搬入量が維持できている状況であります。例えばみんなが1日100gゴミを減量すると、年間3万2千トンのゴミの減量ができます。そのためにはリユース（繰り返し使うこと）やリサイクル（資源として再利用すること）で使えるものを分別して捨てる他、食料品など多く買いすぎて無駄が出ないようにしていく工夫が必要です。

最後に煙突の上にある展望台の見学をしました。越谷の市街地を一望でき、遠くはスカイツリーまで見ることができます。向かいの田んぼには今年も田んぼアートが描かれていました。



越谷市リサイクルプラザ見学

午後は荻島にある越谷市リサイクルプラザを見学しました。この施設では市内から発生する不燃ゴミ、瓶、缶、粗大ゴミ、危険ゴミを鉄、アルミ、生びんなどに選別し、資源として再利用できるようにし、選別した資源を素材ごとに売り払ったり、再処理委託をしています。



こちらの施設ではひとまずビデオにて勉強会を行ったあと、係員の案内のもと工場内の視察を行ないました。清掃工場同様大きなゴミピットがあり、そこへは燃えないゴミが沢山ためられていて、二機の大型クレーンで破砕機に送るベルトコンベアーにゴミを乗せています。この作業を見ていて、家電本体が燃えないゴミで、コードが危険ゴミに分けなくてはならない意味がはっきりと理解できました。家電にコードが繋

がっている状態だとクレーンやベルトコンベアーにコードが絡んで、スムーズに運ばれません。捨てる人にとっては手間かもしれませんが、作業する人の苦勞を知るとルールを守る重要性がよくわかります。

続いて瓶の手選別室の見学をしました。ベルトコンベアーで運ばれてきた瓶は手作業で色別に選別されます。通常見学は皆さんが働いている外の廊下越しに行うのですが、今



回は特別作業室の中に入れていただきました。作業室の扉を開けると、「ツン」と鼻をつくゴミの匂いがしました。瓶をゴミに出す際、「必ず洗ってから捨ててください」という意味がこの作業委員達の職場環境を軽減することを意味することが良く分かりました。身障者の方々も多く働いているようで、我々も労働者の気持ちを想像しながらゴミ問題に取り組みなくてはいけないことがよく分かりました。

その後一階の粗大ゴミ再生工房の見学をしました。集められた粗大ゴミや、持ち込まれた粗大ゴミは再生できるものと、そうではないものへ分別し、再生できるものは職人さんの手で綺麗に修理され、ピカピカに磨かれ、安い値段で販売されています。再生できないものは、燃えるゴミ、燃えないゴミに分割され、燃えるゴミは東埼玉資源

環境組合第一工場へ、燃えないゴミは先ほど見学したゴミピットに入れられます。

その後牛乳パックから再利用の手作りペンケースを作るといった工作体験をしました。この施設はゴミを処理するだけでなく、ゴミを減らし、リサイクルをするように啓発活動することも目的としている施設です。みなさん一生懸命ペンケースを制作していました。



現地研修会総括

毎日家庭から出る大量のゴミ。自治会活動がなければゴミステーションの設置もできないし、市も収集してくれることはありません。現在越谷市では燃えるゴミ、燃えないゴミ、白色トレイ、瓶、缶、危険ゴミ、衣類、に分別し曜日別に回収日が決まっています。我々はそのルールに従いゴミステーションを管理しています。また、それ以外にアルミ缶や新聞紙や段ボールといった紙類、一升瓶、衣類、等の資源ごみとして扱われるゴミを市のゴミ収集とは別途、事業として取り組んでいる自治会も多いと思います。

しかし、中には分別せずに一緒くたに一つの袋に入れて捨てていく人や、曜日を守らなかったり、ひどい場合は川や田んぼに捨てていく人までいます。モラルの低下といってしまうかもしれませんが、自分のことしか考えられない人で、自分が捨てたゴミが誰がどのように処分しているのか想像力が欠乏していると思えます。

我々現地研修に参加した会長さん達には、実際見てきて感じたことを多くの会員の皆さんに話していただき、ゴミの分別の強化とゴミ出しのマナー向上、そして何よりもゴミの減量化に向けての啓発活動を活発に行っていただきたいと感じました。

要 点

★なによりもゴミの減量化をしましょ★

越谷のゴミ処理施設の素晴らしさは理解できたのですが、最終処理場には限界があります。少しでも最終処理場の容量を超えるのを遅らせることが大切です。食事なども食べる分だけ作って、なるべく廃棄するものを減らしましょう。

★分別の徹底★

リサイクルやリユースできるものを燃えるゴミで出していないでしょうか？燃やしてしまうことは簡単ですが、きっちり分別してくれれば再生され使うことができます。燃やしてしまったものはスラグになって最終処理場の容量を埋めていきます。また限りある資源の使用量も減らすことにもなるので大きな活動です。是非みなさんで取り組んでいきましょう。

★想像力を持ってゴミを捨てよう★

自分が捨てたゴミの先には沢山の人や機械が働いています。鼻をつくような匂いの中で働くのが大変なのは容易に想像できるし、機械にコードなどが絡んでしまい故障してしまったらゴミの処理ができなくなってしまいます。川に捨てたゴミは川の汚染にもつながり、近所に悪臭を放つし、回収処分するのに無駄な税金がかかってしまいます。

★ゴミ施設を知りましょ★

中には粗大ゴミの出し方がわからず困っている家庭もあるかもしれません。コンビニでゴミシールを買い粗大ゴミの受付専用電話に電話をするか、事前受付をすれば粗大ゴミの直接搬入をすることもできます。

越谷市リサイクルプラザ 粗大ゴミの受付専用番号 048-973-5300